

生産と人間部会研究会

主テーマ：セイコーエプソン(株)ものづくり塾 見学・研究会

～技能伝承の最先端と温故知新～

令和5年12月9日(月) 13:00-17:15

1. はじめに

生産原論専門委員会では、生産技術史部会、先端生産技術部会、生産哲学・倫理部会、生産と人間部会が年1回ずつ研究会を企画し開催している。第4回研究会は、生産と人間部会が企画と開催を担当した。研究会では、セイコーエプソン(株)本社を訪問し技能五輪の訓練を見学後、若手技術技能の人材育成並びに技能士の評価向上を実現するための必要性について講演を行った。講演を通して、技能伝承を目的とした後輩育成や技能五輪出場者における地位向上等に関して議論を深めた。

2. 研究会の概要

12月9日(月) 13時から17時まで施設見学と講演会を開催し、生産原論委員会からは計12名、エプソンからは約40名の参加があった。第4回研究会では、「セイコーエプソンものづくり塾の見学・研究会」を主テーマとし、後輩育成並びに技能伝承について深く議論を交わした。前半は、セイコーエプソンの概要説明及びエプソンミュージアム諏訪、技能五輪訓練の見学を行った。後半の講演では、セイコーエプソン(株)ものづくり塾部長の新井修氏に「セイコーエプソンの若手技術技能人材の育成」と題して、続いて関東職業能力開発大学校名誉教授の伊藤昌樹氏に「技能者の教育(技能士の評価向上に向けて)」と題して講演頂いた。講演後に討論会を開催した。

3. 講演内容の概要

講演1

「セイコーエプソンの若手技術技能人材の育成」

セイコーエプソン株式会社 ものづくり塾部長

新井 修氏

はじめに、人々の暮らしを豊かにし自然の豊かさを守り未来へつなぐエプソンのパーパス「省・小・精」について説明があった。「EPSON」は、「EP(Electric Printer)」を基本として、価値ある製品・サービスである子ども「SON」を生み出し続けるという思いから

命名された。

エプソンには、技術技能研修を企画し推進する組織体制としてものづくり塾が存在する。ものづくり塾は、1969年の技能研修所から開始され2002年の発足後、ものづくりに必要な基礎研修を体系的に構築し、キャリアアップに必要な技術技能教育を行うことで会社全体の基礎力強化を担って来た。会社全体の基礎力を強化するためには、卓越技能者の育成が必要不可欠であり、技能五輪競技を通してものづくり業界トップレベルの技能を習得していることが報告された。「省・小・精」による人材育成は、将来のものづくりを担う人材輩出が大いに期待される。

講演2

「技能者の教育(技能士の評価向上に向けて)」

関東職業能力開発大学校教授 名誉教授

伊藤 昌樹氏

はじめに、生産原論専門委員会の意義が説明され、モノづくり人材の不足について警鐘が鳴らされた。

講演は、五輪選手・指導員含め関係者全員が聴講した。

モノづくり人材の不足は、国・企業・技能士の責任が大きく、技能士の地位が低いことに原因があると報告された。しかし、技能五輪経験者は、技能の侍として胸を張るべきであると展開された。技能の侍になるためには、技量だけでなく知識も必要であるとのことであった。技能五輪経験者の技能士が、知識と技能の二刀流で社会に出て行き、技能士の地位が向上され、憧れの存在となればモノづくり人材の不足解消が大いに期待される。大谷選手(ロジャース)のような技術士(二刀流)の出現が待ち焦がれる。

4. おわりに

講師並びにセイコーエプソン(株)の皆様にご心より御礼申し上げます。研究会において、活発な議論ができたこと、技能五輪の訓練を見学できたことは、貴重な体験でした。次回は、生産原論の総会を令和7年2月4日(火)に開催し、特別講演を行う予定です。会員の皆様のご参加をお待ちしております。

生産と人間部会 永野善己(文責)